

# 3. 思い出の数々

## 佐久間 佐 久

明治32年12月30日生。福島県田村郡出身。

札滑は3回に分けて殖民地地区画測量がなされて、何れもその翌年に開放されている。第1回は明治35年で入口から三線まで、第2回は、40年に七線まで、奥地13線までが41年の測設である。

### 団体入殖

私が父（今朝次）に連れられて、札滑に入殖したのは、明治42年4月で、教え年11才であった。その頃の事を正確に覚えているとは言えず、他の人達も同様と思う。何しろ道は、号線を伝い歩いたし、それに悪路の上に不便なため、2年程下川の学校に通った。

好一（現収入役）の父（広好）が、下川で郵便局に勤めたので、一緒に暮した。

札滑に入殖したのは、団体入殖だが、この他に、私たちより一年早く同県の安積郡から団体入殖者があり、古川（太郎治）さんが団体長で、安積団体と言われ、私たちの方は出身郡をとって、田村団体と言われた。

その頃の団体入殖は、10戸以上と規定されていたが、私たちは7戸よりなく、総代（団体長）は父で、佐藤万治、渡辺政義、本田酉彦、伊藤豊吉、伊藤西藏、（外1戸不明）で、他の3戸は湧別村の方に脱落して終わったが、いまでも子孫が残っているそうだ。

### 札滑の山超道路

上藻から札滑へ越す山道は、いまは林務署が林道を開設して、自動車の通行も可能だが、此所に山道が付けられたのは、私が体を悪くして休んでいた時だったので、大正の初年だった。

コースはいまの林道より手前で、大友逸平の住んでいた左沢に入り、この奥から上藻二六号（アイヌ沢）に抜ける道順であった。

上興部青年会が、飯米を貰って工事をしたそうだが、この道順は、上藻奥地や、滝上方面から名寄地方に出るには、七重（西興部）を迂回するよりは近道になるので、この方面の人達は、駄鞍で物資を運び、結構利用されていた。

私も上藻二六号に、魚釣りにこの道を通ったことがあり、上藻の奥に横田（福治）という人が居住していたのを覚えている。

### 運送店と産業組合

鉄道が名寄から上興部まで開通して、物資の輸送は総て鉄道に変わり、木材も盛んに輸送されていたので、上興部には、三ツ星武田運送店、共春日運送店、ト橋爪運送店の3店があった。

後になって尾中甚一さん、高波恭治が運送店を始めたが、経営は僅かの期間だったと思う。

その後酒井（政四郎）さんが、酒井運送社を設立して、私が任されて経営し、昭和15、6年頃に橋爪さんと合併した。

産業組合は、昭和2年に利用組合として発足したのが始まりで、組合長は、上興部郵便局長の三宅徳一さんだった。

設立は村長などが音頭をとり、奥興部土功組合等の金策を主としたものだったが、名目だけで殆ど活動もなく、数年を経過した。

昭和8年になって、産業組合法による組合に改組した。組合長は三浦（新次）さんで、従来の組合事務所は、役場の当直室を間借りしていて、手狭く仕事もできないので、三浦組合長の好意で、木工場の倉庫の一部を借りて、事業が始められた。

その後事務所は、現在の農協ガソリンスタンドの角地に移った。昭和13年に、現在地に稀に見る立派な事務所（火災前の事務所）を新築したが、現スタンド附近の旧事務所（当時倉庫に使用していた）は、昭和14年の瀬戸牛市街大火で焼失して終った。

組合の発足当時は、反産運動（産業組合反対運動）などもあり、また組合員の加入も少なかったので、運営にも苦労し、昭和12年ころになって、漸く軌道に乗ったようだ。